

今月の断酒表彰

- ◎A.Tさん 吹田支部 断酒 36年
- ◎I.Sさん 吹田支部 断酒 9年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。



令和3年2月1日発行 No. 216

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>



断酒に思う(113)

吹田支部 Y.H

毎年1月になると、吹田市民病院で胃癌の手術をしたこと思い出します。

6年前の10月23日、新阿武山病院に入院しなければ、離婚だと、嫁さんに言われ、兎に角その場だけでも収めたい一心で新阿武山病院に入院いたしました。

何回も何回もお酒の問題を起こし、家族、両親、親戚、同僚と、私の周りの全ての人たちに、言葉では言い表せない程の、迷惑をかけ、それでもお酒が止められず、毎日自分の根性の無さにもがき苦しんでいました。

入院して、アルコール依存症と言われ、これは、病気だから根性の問題ではなく、治療すればいい問題であると、院内の勉強会で習い、また、断酒会に毎日通う間に、心が晴れてきました。

もしかしたら、私もお酒を止めることが出来るかも知れない、断酒できれば、元の生活に戻れるかも知れないと、本当に心から嬉しかったことを、今でも思い出します。

1月23日迄の3ヶ月間入院の予定でしたが、院内の定期検査で、胃癌が見つかり、急遽退院して1月に手術が決まり、あれよあれよと言う間でした。

それから、静脈瘤手術を2回、喉のポリープ切除手術、肝硬変の定期検査と、お酒を飲む時間も余裕もないまま時間が過ぎていきました。

最初の1年は、家族、会社の理解をもらい、毎日例会廻りをいたしました。

あの1年があったから、私は今でも断酒が出来ていると確信しています。

例会での家族の体験談がどれだけ心に響いたか、家族の体験談を聴くたびに自分が考える何万倍も、

嫁さんや、子どもたち、両親に迷惑を掛けていたことが本当に身に沁みました。

あれから6年、子どもたちは、二人とも結婚し、孫も3人産まれました、こんな幸せがあるとは思いませんでした。

私は、この幸せを、絶対に手放したくありません。もう二度とあの、惨めな時には戻りたくありません。

一日断酒、これこそが、私の唯一無二の事だと、つくづく思います。

有難う断酒会、有難う新阿武山病院



◆新阿武山病院6病棟デイルームより

断酒会規範

十 断酒会は政治、宗教、商業活動に利用されない。

断酒会は、例会に於ては体験談に終始するという原則を持っているが、組織の運営を討議する理事会、代議員会等では、何でも自由に討論することができる。ただし、政党、宗派の問題だけは例外である。断酒会にはあらゆる政治思想、信仰を持つ人が入会している。政治思想、信仰は、信奉する人にとって

は絶対的ともいえるものであり、そうした議論の中で起こる確執は断酒会員の融和、一体性を損なうだけでなく、将来にしこりを残すからである。

また、そうした議論の中でもし意見統一があった場合は、断酒会は政治、宗教に利用される怖れがあり、「断酒会は人間愛に充ちた純粋な奉仕団体である」という、基本理念を捨てることにもなるのである。

確かに断酒会は、政治的に動くことはある。地方行政機関に様々な要請をし、政治家に協力を求める。しかしそれは、地域の酒害者を救済するためのものであり、酒害啓発活動をより効果的にするためである。つまり、断酒会活動の一環として行っているものである。また、協力を要請する政治家は酒害問題に理解を示す人に限られており、かつ党派を超えたものである。

断酒会は政治的に動いても、政治的に利用されない組織である。選挙等には一切関与しない。また、宗教団体の協力があっても、断酒会を布教の場にはさせない。酒害問題は社会全体の問題であり、われわれの活動に協力することは彼らの良識であり、見返りを求めないはずである。

断酒会は財源が乏しいので、活動資金を得るために出版や商品の販売を組織として行うことがある。これは止むを得ぬ手段であるので許される。ただし、酒害問題に直接、間接的に関係のあるものの販売が常識である。

会員個人、もしくは外部の者の利益のために、断酒会の中での商行為は許されない。断酒会の純粋さを侵すだけでなく、会員同士の人間関係の悪化につながるからである。

化け物となって帰ってくる。母と妹の三人で父親の介抱する姉は自分の部屋のカレンダーに赤マジックで×を印す。誕生日と記された日も、プールと記された日も赤く×され、カレンダーは赤く染まっていく。父の飲酒を苦しめた母が自殺し、カレンダーは一時白味を取り戻しかけたが、スーパーのワインの試飲を期に再びカレンダーは赤く染まりだす。姉は繰り返す飲酒に対する父への怒りと自分に対するいら立ちから、やがて父はステージ4の癌となり、余命宣告された父に「私に恨まれて死んで行けと」口汚く罵ってしまう。やがて父が一人旅立ったあと、カレンダーのつるしていた自分部屋の壁に「ごめんなさい」の文字を見つけて「化け物は私だったかもしれない」と涙を流す。

私も酒のため、世間の非常識を、常識として「自分に甘く」生きてきた。過度の飲酒が本人も家族も深く傷つけ崩壊して行く人間ドラマに触れ断酒の決意を強くすることができた。



みんなの広場

DVD『酔うと化け物になる父が辛い』を観て
南千里支部 D S

漫画家 菊池 真理子氏が実体験をもとに作成された作品で「うちの常識はいつだってよその非常識」のキャッチコピーが目にとびこんでくる。

父と母、妹と四人の平凡な家族、非常識なのは朝普通に出勤した父が毎夜へべれけに酔いつぶれた

〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの投稿を掲載しています。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。

奮ってご応募ください。(広報部)